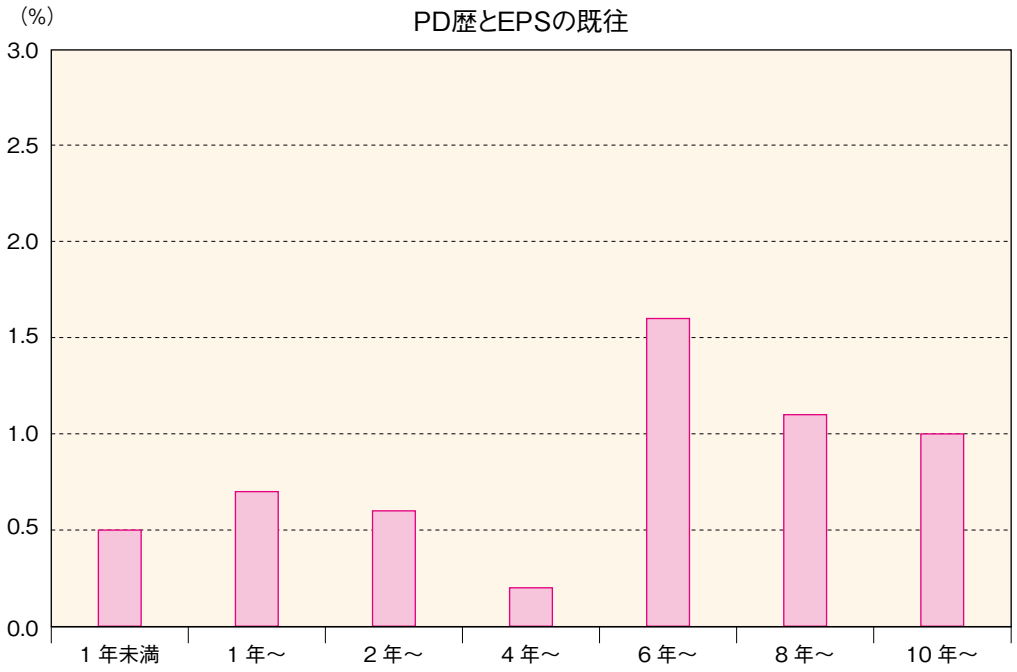
3）腹膜透析調査

（7）被嚢性腹膜硬化症（EPS）の既往（図表47）

EPSの既往	なし	あり（剥離手術既往あり、ステロイド使用歴あり）	あり（剥離手術既往あり、ステロイド使用歴なし）	あり（剥離手術既往なし、ステロイド使用歴あり）	あり（剥離手術既往なし、ステロイド使用歴なし）	合計	不明	記載なし	総計
患者数 (%)	12,189 (94.7)	525 (4.1)	16 (0.1)	68 (0.5)	67 (0.5)	12,865 (100.0)	304	3,961	17,130



EPSの既往	1年未満	1年～	2年～	4年～	6年～	8年～	10年～	合計	記載なし	総計
なし (%)	1,130 (99.6)	909 (99.3)	1,326 (99.5)	764 (99.7)	371 (98.4)	172 (98.9)	215 (99.1)	4,887 (99.4)	7,302 (91.9)	12,189 (94.7)
あり（剥離手術既往あり、ステロイド使用歴あり） (%)	4 (0.4)	6 (0.7)	6 (0.5)	1 (0.1)	5 (1.3)	2 (1.1)	1 (0.5)	25 (0.5)	500 (6.3)	525 (4.1)
あり（剥離手術既往あり、ステロイド使用歴なし） (%)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (0.2)	16 (0.1)
あり（剥離手術既往なし、ステロイド使用歴あり） (%)	1 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.1)	65 (0.8)	68 (0.5)
あり（剥離手術既往なし、ステロイド使用歴なし） (%)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	2 (0.0)	65 (0.8)	67 (0.5)
合計 (%)	1,135 (100.0)	915 (100.0)	1,333 (100.0)	766 (100.0)	377 (100.0)	174 (100.0)	217 (100.0)	4,917 (100.0)	7,948 (100.0)	12,865 (100.0)
不明	8	1	12	9	6	5	5	46	258	304
記載なし	152	140	173	100	71	38	42	716	3,245	3,961
総計	1,295	1,056	1,518	875	454	217	264	5,679	11,451	17,130

集計対象；腹膜透析経験あり患者

解説

被嚢性腹膜硬化症（EPS）に関する調査は全透析患者を対象に行った。PDの経験があり、EPSの既往について回答があった12,865名において、676名（5.3%）にEPSの既往が認められた。EPSの既往を有する患者のうち541名（80.0%）で剥離手術の既往が認められた。

PD歴とEPSの既往については4,917名から回答が得られ、EPSの既往はPD歴1年未満で0.4%、1年～2年未満で0.7%、2年～4年未満で0.5%、4年～6年未満で0.3%と非常に低値で留まるのに対し、6年～8年未満で1.6%、8年～10年未満では1.1%、10年以上では0.9%と1%前後まで増加していた。